巻末資料

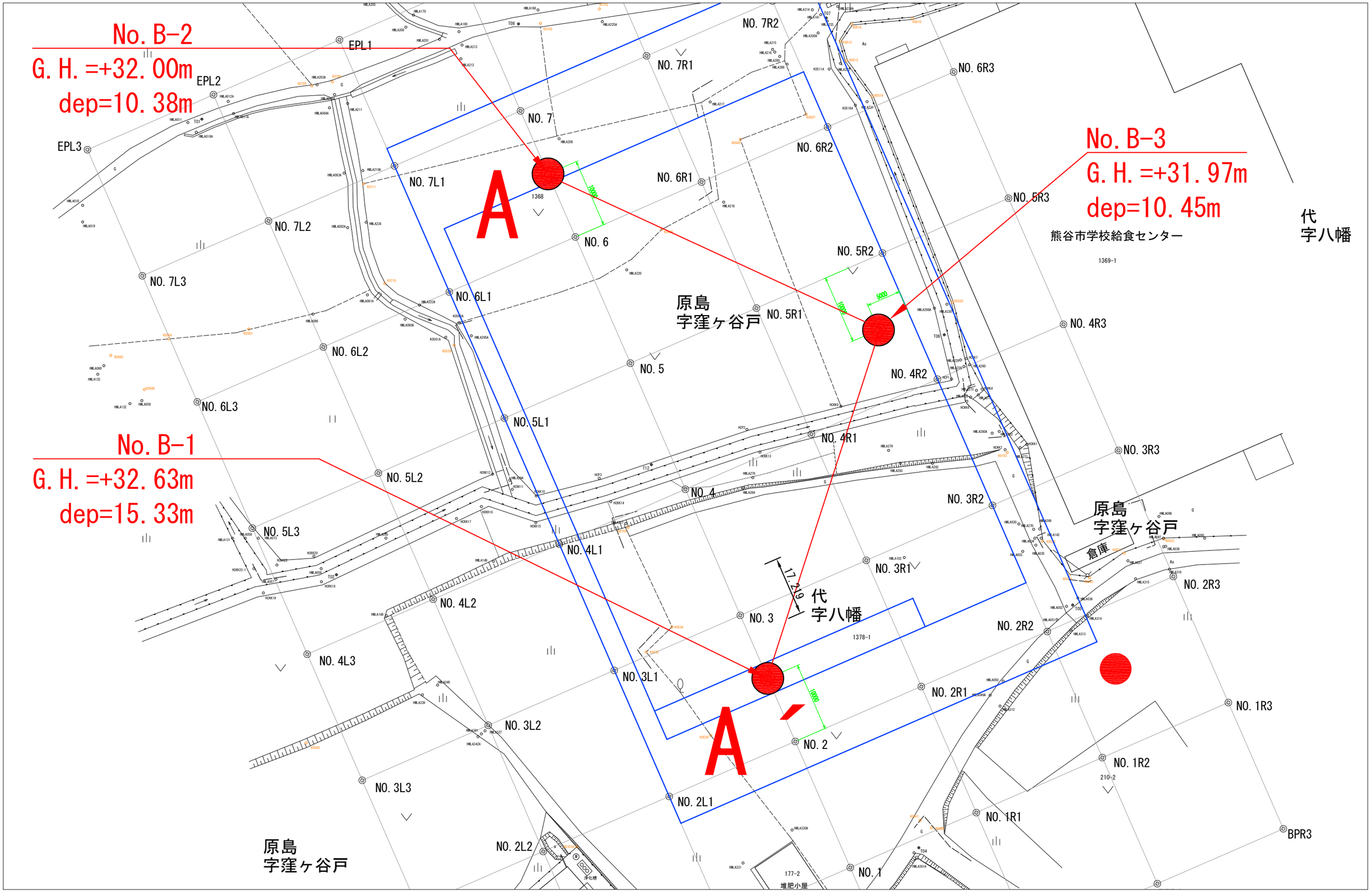
調査位置図

地層想定断面図

ボーリング柱状図

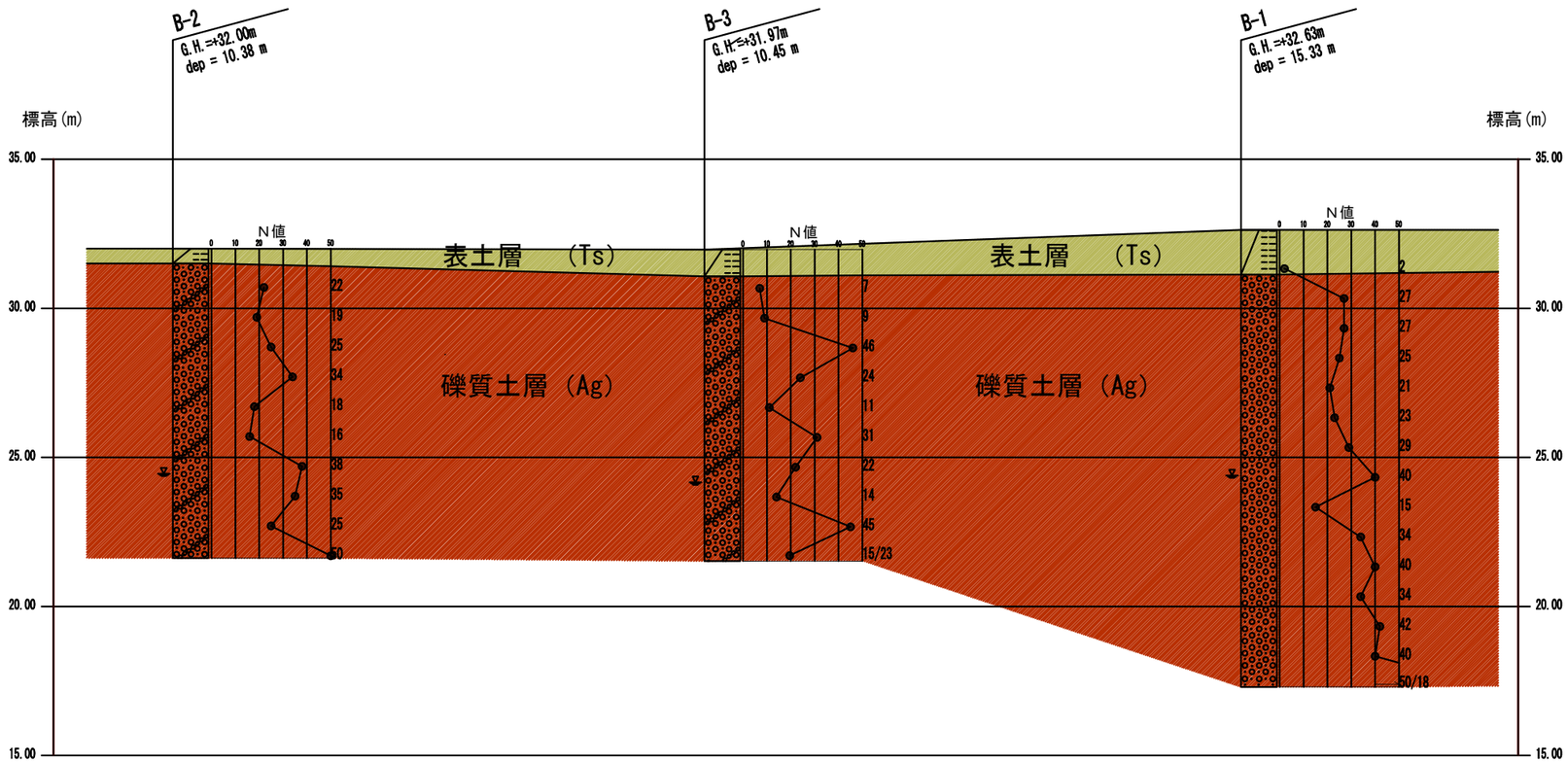
現場記録写真

調査位置図　S＝1：500



No. B-2
G. H. =+32. 00m
dep=10. 38m
No. B-3
G. H. =+31. 97m
dep=10. 45m
No. B-1
G. H. =+32. 63m
dep=15. 33m
A
A´
熊谷市学校給食センター
代
字八幡
原島
字窪ヶ谷戸
倉庫
EPL1
EPL2
EPL3
NO. 7R2
NO. 7R1
NO. 6R3
NO. 7
NO. 6R2
NO. 7L1
NO. 6R1
NO. 5R3
NO. 7L2
NO. 6
NO. 5R2
NO. 7L3
NO. 6L1
NO. 5R1
NO. 4R3
NO. 6L2
NO. 5
NO. 4R2
NO. 6L3
NO. 5L1
NO. 4R1
NO. 3R3
NO. 5L2
NO. 4
NO. 3R2
NO. 5L3
NO. 4L1
NO. 3R1
NO. 2R3
NO. 4L2
NO. 3
NO. 2R2
NO. 4L3
NO. 3L1
NO. 2R1
NO. 1R3
NO. 3L2
NO. 2
NO. 1R2
NO. 3L3
NO. 2L1
NO. 1R1
BPR3
NO. 2L2
NO. 1
1368
1378-1
1369-1
210-2
177-2
10000
5000
17.219

地層想定断面図
(H＝1：600　V＝1：200)



ボーリング柱状図

調　査　名　新熊谷学校給食センター整備予定地測量及び地質調査業務委託

ボーリングNo	B	－	1								

事業・工事名

シートNo　1

ボーリング名	B－1	調査位置	埼玉県熊谷市代・原島地内					北緯	36° 17’ 10.3”
発注機関	熊谷市教育委員会教育総務課			調査期間	令和 5年 11月 24日 ～ 5年 11月 30日			東経	139° 36’ 43.5”
調査業者名	株式会社富士測量 電話（048－521－0125）	主任技師	蓮見栄一	現場代理人	蓮見栄一	コア鑑定者	横島慎一	ボーリング責任者	横島慎一
孔口標高	G.H.=+32.63m	角度	上 180° 90° 下 0°	方向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機	DO－D	ハンマー落下用具	半自動落下式（野帳記録）
総掘進長	15.33m								エンジン	NFD－10	ポンプ	BG－3CL

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値 0 10 20 30 40 50	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
1	31.13	1.50	1.50		表土（シルト）	暗褐褐灰		軟らかい	湿り気，粘り気共に中位。 不均質なシルトを主体とする耕作土。 G.L.－0.2m付近，植物根が点在する。 G.L.－0.8m～G.L.－1.0m付近，水気中位の粒径均一な細砂を挟む。		1.15	0／0	1／15	1／15	2／30	2						
2											1.45 2.15	6	8	13	27／30	27						11／24
3											2.45 3.15	9	8	10	27／30	27						
4											3.45 4.15	7	10	8	25／30	25						11／25
5											4.45 5.15	6	7	8	21／30	21						
6											5.45 6.15	6	9	8	23／30	23						
7									水気が少ない。 礫径φ5㎜～30㎜位の亜円礫を主体とする。 最大礫径は，φ40㎜～50㎜位で，礫分は70%程度である。 礫間は粗砂を充填している。 G.L.－5.0m～G.L.－6.7m付近は，礫分が比較的少なくなる。 G.L.－8.5m以深は，水気が増加する。 G.L.－10.8m以深は，礫分が若干多くなる。		6.45 7.15	7	11	11	29／30	29						11／27
8										11/28 8.24	7.45 8.15	14	15	11	40／30	40						
9											8.45 9.15	4	6	5	15／30	15						
10											9.45 10.15	10	11	13	34／30	34						11／28
11											10.45 11.15	12	15	13	40／30	40						
12											11.45 12.15	10	11	13	34／30	34						
13											12.45 13.15	13	18	11	42／30	42						11／29
14											13.45 14.15	12	14	14	40／30	40						
15	17.30	13.83	15.33		砂礫	褐灰	中位～非常に密な				14.45 15.15	16	34／8		50／18	83						11／30
											15.33											

ボーリング柱状図

調　査　名　新熊谷学校給食センター整備予定地測量及び地質調査業務委託

ボーリングNo	B	－	2								

事業・工事名

シートNo　2

ボーリング名	B－2	調査位置	埼玉県熊谷市代・原島地内					北緯	36° 17’ 17.4”
発注機関	熊谷市教育委員会教育総務課			調査期間	令和 5年 11月 15日 ～ 5年 11月 24日			東経	139° 36’ 40.6”
調査業者名	株式会社富士測量 電話（048－521－0125）	主任技師	蓮見栄一	現場代理人	蓮見栄一	コア鑑定者	平井拓	ボーリング責任者	平井拓
孔口標高	G.H.=+32.00m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90°	使用機種	試錐機：YBM－05 / エンジン：NFD10－EK / ハンマー落下用具：半自動落下型（野帳記録） / ポンプ：V6－B
総掘進長	10.38m								

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
	31.50	0.50	0.50		表土（シルト）	暗褐			湿り気，粘り気共に弱～中位。 G.L.－0.3mまで不均質な粘土を主体とし，草根及びφ20㎜程の亜円礫を点在する。 G.L.－0.3mから礫分が多くなる。	
1					玉石混じり砂礫	暗灰	中位～密な		水気が少ない。 礫径φ2～50㎜程の亜角～亜円礫を主体とする。 礫間は細砂～中砂を充填しており，所々粘土を少量混入する。 礫分は70%～80%程である。 G.L.－1.6m付近，φ100㎜のチャート礫を点在する。 G.L.－3.8m付近，礫の粒径が少し小さくなる。 G.L.－8.0m付近，水気が多くなり礫間は中砂～粗砂が充填している。 G.L.－9.7m付近，玉石が連続し，密な状態になる。	11/21 7.55
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10	21.62	9.88	10.38							

標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値 0 10 20 30 40 50
1.15	5	8	9	22／30	22
1.45 2.15	3	4	12	19／30	19
2.45 3.15	9	11	5	25／30	25
3.45 4.15	9	16	9	34／30	34
4.45 5.15	6	6	6	18／30	18
5.45 6.15	3	5	8	16／30	16
6.45 7.15	22	8	8	38／30	38
7.45 8.15	13	12	10	35／30	35
8.45 9.15	7	8	10	25／30	25
9.45 10.15	14	19	17	50／30	50
10.45					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
				11／15
				11／16
				11／18
				11／20
				11／21
				11／22

ボーリング柱状図

調　査　名　新熊谷学校給食センター整備予定地測量及び地質調査業務委託

ボーリングNo	B	－	3								

事業・工事名

シートNo　3

ボーリング名	B－3	調査位置	埼玉県熊谷市代・原島地内					北緯	36° 17’ 15.9”
発注機関	熊谷市教育委員会教育総務課			調査期間	令和 5年 11月 15日 ～ 5年 11月 22日			東経	139° 36’ 44.2”
調査業者名	株式会社富士測量 電話（048－521－0125）	主任技師	蓮見栄一	現場代理人	蓮見栄一	コア鑑定者	横島慎一	ボーリング責任者	横島慎一
孔口標高	G.H.= +31.97m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90°	使用機種	試錐機	D0－D	ハンマー落下用具	半自動落下式（野帳記録）
総掘進長	10.45m								エンジン	NFD－10	ポンプ	BG－3CL

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
1	31.07	0.90	0.90		表土（シルト）	暗褐灰			湿り気，粘り気共に中位。 不均質なシルトを主体とする耕作土。 植物根を点在する。	
2					玉石混じり砂礫	褐灰	緩い～密な		水気が少ない。 礫間は，粒径不均一の中砂～粗砂を充填している。 礫径φ2㎜～30㎜位の亜円礫を主体とする。 最大礫径は，φ80㎜～100㎜位で，礫分は60%～70%である。 G.L.－0.7m～G.L.－0.9m逸水する。 G.L.－4.2m～G.L.－4.3mに粘土を挟む。 G.L.－5.0m付近，比較的礫分が少なくなる。 G.L.－8.0m以深，水気が多くなる。 G.L.－9.4m付近に，コア長150㎜程度の玉石がある。	11/18 7.81
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10	21.52	9.55	10.45							

標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	2	2	3	7／30	7
1.45～2.15	3	3	3	9／30	9
2.45～3.15	16	17	13	46／30	46
3.45～4.15	6	8	10	24／30	24
4.45～5.15	5	3	3	11／30	11
5.45～6.15	10	11	10	31／30	31
6.45～7.15	7	8	7	22／30	22
7.45～8.15	5	4	5	14／30	14
8.45～9.15	6	7	32	45／30	45
9.45～10.15	5／3	5	5	15／23	20
10.38					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
				11／15
				11／16
				11／18
				11／20
				11／21

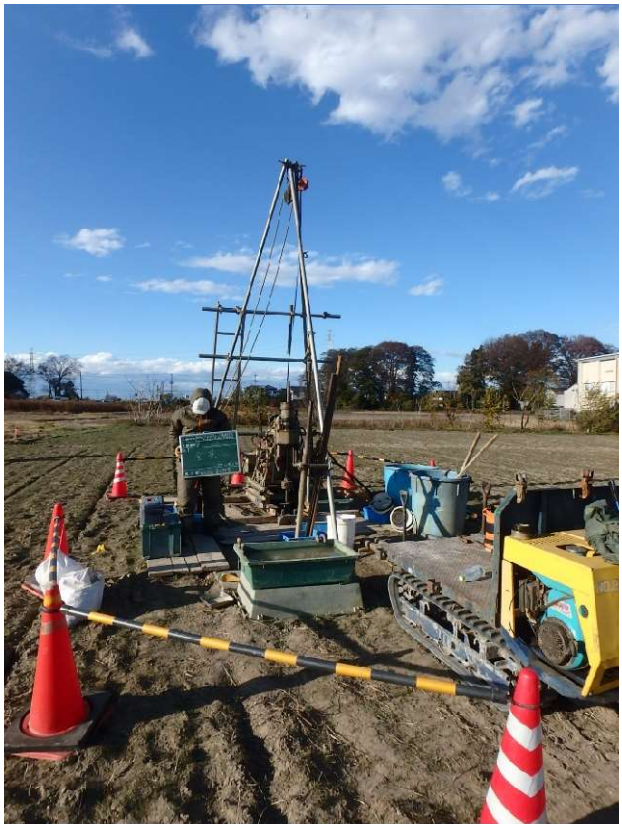
記録写真　No.B-1



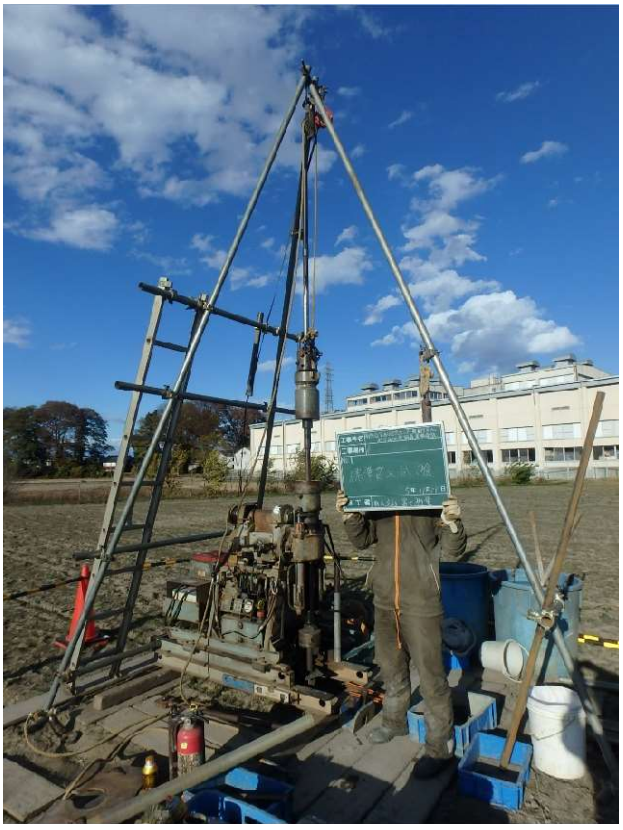
施工前



搬入状況(キャタ運搬)



全景



標準貫入試験

記録写真　No.B-1



残尺 1.97m



検尺 15.33m



調査孔閉塞(発生土)



施工後

記録写真　No.B-2



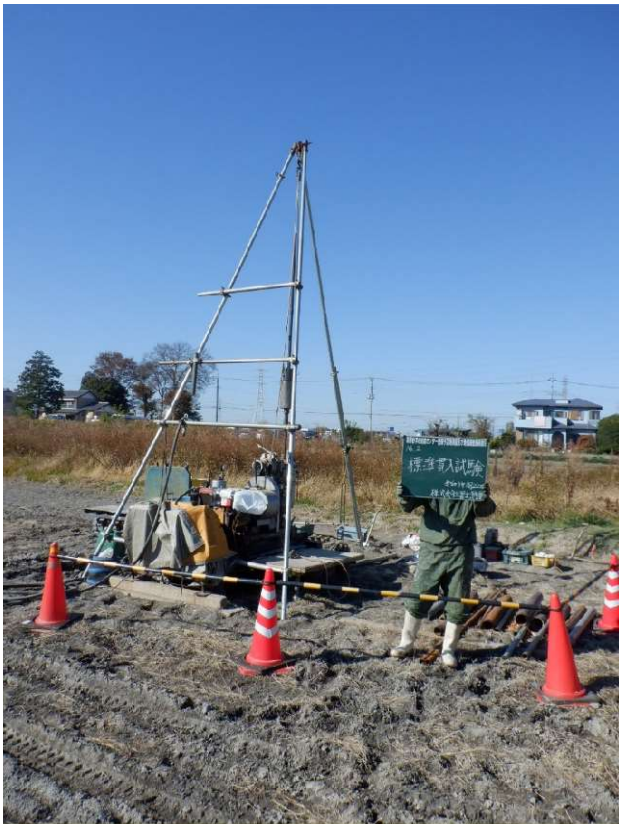
施工前



搬入状況(キャタ運搬)



全景



標準貫入試験

記録写真　No.B-2



残尺 1.92m



検尺 10.38m



調査孔閉塞(発生土)



施工後

記録写真　No.B-3



施工前



搬入状況



全景



標準貫入試験

記録写真　No.B-3



残尺 1.85m



検尺 10.45m



調査孔閉塞(発生土)



施工後

記録写真　K.BM



K.BM 近景



K.BM　全景